

# 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 小児科専門研修プログラム 2027年度募集



- ・ 小児科を志す人、小児医療を包括的に学ぶための、症例が非常に豊富な病院。
- ・ 臨床医学は体験学であり、より多く指導医のもとでたくさん症例に触れることが望ましく、その場を提供できます。

**当プログラムの小児科専攻医として働きませんか!!!**

**独立したフロの小児科医を一緒にめざしましょう!!!**

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター

臨床研修センター 専門研修担当 宛

〒901-1193 沖縄県南風原町字新川 118-1 TEL : 098-888-0123 FAX : 098-888-6400

メールアドレス

臨床研修センター : [nanbu\\_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp](mailto:nanbu_pgmecc@hosp.pref.okinawa.jp)

## I. 当院こども医療センター部門の特長

1. 沖縄県における小児医療の最終病院
  - －小児内科系・外科系疾患(心臓外科手術など)の高度の臓器専門医療
  - －全県の重症児受け入れの周産期母子医療センター・小児集中治療室
2. 初期から3次まで24時間、365日稼働の小児救命救急医療(小児救命救急センター)
3. 小児科後期研修による人財育成(新専門医制度小児科専門研修プログラム基幹施設)
  - －2年の院内研修の後1年の地域小児総合診療研修(本島北部・宮古・八重山人財確保)
4. 小児から成人へのキャリアオーバーを目指した、総合病院併設型のこども病院

## II. 小児科専門研修(後期研修)指導医

1. 小児内科系： 総合診療 7、循環器 6、新生児 10、腎臓 2、血液・腫瘍 4、  
神経 2 (児童精神兼任)、内分泌・代謝 2、感染症 2、集中治療 4
2. 小児外科系： 小児心臓外科 3、小児外科 3、小児整形外科 1、小児形成外科 1、  
小児麻酔科 5、小児泌尿器科 1  
※脳外科、形成外科、口腔外科、眼科、麻酔科は成人診療と兼任だが  
小児への思い入れが強く、小児領域を得意とする。

## III. 小児科専攻医募集人数・受け入れ実績

2027年度募集人数は10名。2006年の開設から2025年度までの小児科専攻医受け入れ95名(毎年3~7名受け入れ)、過去3年の小児科専門医取得者は15名。  
現在(2026年度)12名(うち離島勤務者6名)の小児科専攻医が勤務中。

## IV. 小児科研修プログラムの特徴

1. 小児科専門医志望者が小児医療を包括的に学ぶための症例が非常に豊富な病院。コモン・ディジーイズから専門領域の疾患まで幅広く臨床暴露できる。
2. 開設20年目の病院だが、専攻医の意見を取り入れ、カリキュラムを柔軟に調整・改善できる。
3. 2年間の当センター内研修終了後、県立北部・宮古・八重山の各病院小児科における1年間の地域での小児医療実践にて、現地指導医に相談しながら、ほぼ独立した一般小児科医として機能し、一人で責任をもって臨床意思決定ができるようになる。

## V. 当院における小児科後期研修医の到達目標

当プログラムでは、2年の院内研修ののちに、3年次は1年間、独立した小児科医としての勤務を離島・地域で行うことを原則としている。つねに「島(地域)で一人でやれる小児科医」というゴールを意識して行う研修は、現代の世界の医学教育の潮流にそった「アウトカム(コンピテンシー)に基づいた教育(Outcome[Competency]-based education)」の理念で行われる。そのために必要な「当院で育てたい小児科医の能力」を当院の医師とコメディカルスタッフ、ま

た離島・地域の医療従事者とともに時間をかけて協議し、「4つの柱と16の指標」として策定した。これを日々の研修や評価の枠組みとして実際に用いて研修を行う(次項参照)。

#### A. 診療における問題解決力 (こどもの総合診療医、育児・健康支援者、医療の管理者)

1. 急性・慢性の小児疾患・病態・問題の診断・治療・管理が包括的に行える。
  - －重症度の判断と初期対応ができる。
  - －小児の成長・発達の段階に応じた病歴・身体所見の採取、無駄のない検査の計画と実施、論理的な思考による臨床推論により問題の診断ができる。
  - －治療・管理計画を立案できる
  - －基本的な手技に精通し、侵襲的な手技も安全に行える。
  - －有効な診療録の記載ができる。
  - －EBMを適切に実践できる
  - －入院から外来への連続性、成育の視点で先を見通して継続診療ができる。
  - －限界を認識しつつ保険診療を遵守し、社会資源を効果的に活用できる。
2. 患者教育、予防・健康増進活動が実践できる。
3. こどもにとっての最善の利益を考えて行動できる。
  - －利益と危険度のバランスを考えて診断・治療を組み立てられる
  - －心理社会的・倫理的・法的・経済的な配慮の上で問題に対応できる。
  - －白黒つかないこと、コントロールバシーを受容して問題に対応できる。
4. 複雑な問題、同時多発の問題にも、優先順位を考えて柔軟に対応できる。

#### B. 医療安全と品質保証にとりくむ姿勢 (コーディネーター、学識・研究者、医療の管理者)

5. 自己の限界を把握し、適切なタイミングで必要な助けを求められる。
6. 自己をふりかえり、継続学習し、院内外の発表、研究活動を行える。
7. 医師・関連職種学びを促し、経験・職種を超えて他から学ぶ姿勢を示せる。
8. 診療体制・医療安全のルールを守り、改善を提案し、改善策を構築できる。

#### C. 対人関係の構築力と連携力 (こどもの総合診療医、コーディネーター、医療の管理者)

9. 子ども目線、子育て支援の視点で、良好な医師－患者関係を築ける。  
(傾聴、共感と思いやり、尊敬、守秘、信頼構築と維持、明確な意思伝達)
10. 診療チーム内および対外的に良好な人間関係を構築し、連携できる。  
(尊敬、共感と思いやり、良いアクセス、明確な意思伝達、支持的、円滑な病診連携と搬送)
11. 診療チームや医師集団のリーダーとして機能できる。

#### D. 人間力 (代弁者、医療の管理者)

12. 自己管理 (時間厳守と時間管理・感情の制御・心身の健康管理) ができる。
13. 正直、公正、誠実、謙虚、利他、言行一致で責任を果たすことができる。
14. ジェネラリストとして小児の全臓器・全領域に関心を持ち続けられる。
15. 職業人としての自分の将来像を構築できる。

16. こどもを取り巻く社会への啓発、小児医療体制改革が実践できる。

## VI. 小児科専門研修ローテーションスケジュール

### 入院診療

- ・ 総合診療と新生児診療科が研修の柱(宮古・八重山・北部のニーズによる)  
2年間で総合診療6ヶ月以上、NICU6ヶ月(3ヶ月×2)  
※総合診療とNICUはなるべく屋根瓦
- ・ 循環器、血液、神経(+児童精神)、腎臓、小児集中治療(原則3年次後半か4年次)の  
各科は2年間で2ヶ月×1のローテーション
- ・ 希望者には2年目で総合診療科の代わりに離島研修を選ぶことも可能
- ・ 希望者には県立中部病院を1-2ヶ月研修することも可能

### 外来診療

- ・ 検診精査・不定愁訴・Common Diseases/Common Conditions の外来  
新患外来1単位/週、フォローアップ1単位(半日)/週を年間通じて行う
- ・ 今年度より内分泌科は外来で診療・教育

## VII. 研修医数・募集方法

募集定員は1学年10人。見学の際に当プログラム紹介・勧誘を兼ねた面接の場を設ける。特定の試験日の設定はせず、応募に対し見学・面接の際の情報により当小児科専門研修委員会で協議して採用を決定し、専門医機構提示のタイムラインにて公表する。院内外の初期臨床研修医の専攻医候補者を公平に扱う。見学・面接は随時受け付ける。

## VI. 研修の機会

### 1. 週間教育セッションスケジュール

	月	火	水	木	金
12:00-13:00	専攻医主導小児総合外来症 例カンファレンス	指導医 ベットサイド講義	シミュレーション実習 (PALS)	指導医 ベットサイド講義	指導医による基礎セミナー

※その他専門診療科ごとの研究会・勉強会、他の研修病院とのカンファレンスは時間外に多数ある。

※コアレクチャーは初期研修医対象で、小児科専攻医は講師となる。

※すべての機会において後期研修医のプレゼンテーション力向上の場となる。

### 2. 学会発表、論文作成指導

日本小児科学会沖縄地方会 年2回、沖縄県医師会学術集会 年2回、には積極的に演題提出を奨励する。また、全国学会にも出席、発表の機会を設ける。また学会発表した演題をもとに担当の指導医が論文作成のサポートを行う。当院医学雑誌、沖縄県医沖縄県医師会学会雑誌への原著論文投稿は査読があり、症例報告を中心に論文掲載も比較的スムーズである。指導医は専門医取得のための論文作成準備を入念にサポートできる。